

北里大学病院・北里大学東病院(旧)を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	角膜屈折力と眼軸長のみを採用した複数の眼内レンズ度数計算式の予測性についての単施設後方視的研究 (B22-046)
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部眼科学 准教授 飯田 嘉彦
他の研究機関および 各施設の研究責任者	他の研究機関はありません。
本研究の概要・背景・目的	<p>白内障手術は単に水晶体の混濁を取り除くだけではなく、術後の見え方を患者の希望通りにする屈折矯正手術としての側面をもつようになってきており、患者様の白内障手術の満足度を向上させるためには、眼内レンズの度数を正確に予想することが重要です。近年、広く普及している SRK/T 式よりも精度が良好であるとされる次世代の計算式が複数登場してきており、良好な予測精度が報告されており、徐々に普及しつつありますが、この次世代の計算式では従来の SRK/T 式と比べて多くの測定項目を必要とします。</p> <p>眼内レンズ偏位を生じた患者様や、以前、白内障手術が施行されていて眼内レンズが挿入されていない状態である無水晶体眼の状態の患者様では、次世代の計算式で必要とされる項目が計測できず、少ない項目で計算可能な従来の計算式である SRK/T 式が選択されています。しかし、次世代の計算式に従来の計算式と同様の少ない項目を入力して眼内レンズ度数を計算し、その予測精度を検証した報告はありません。そこで本研究ではすでに白内障手術を終えられている患者様を対象に、次世代の計算式に角膜屈折力と眼軸長の項目のみを入力して眼内レンズ度数や予測屈折値を算出し、実際の患者様の屈折度数との比較を行い、この計算方法の有用性を検証します。</p> <p>従来の計算式である SRK/T 式よりも良好な予測性が確認できれば、眼内レンズ偏位や、無水晶体眼の患者様へのこれらの計算式を用いた眼内レンズ度数計算への応用が期待できます。</p>
調査データ 該当期間	2021 年 3 月 1 日から 2021 年 9 月 30 日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さま	上記期間内に白内障手術を当院で受けられ、術後 3 か月の時点で矯正視力が 1.0 以上の患者様
研究の方法 (使用する試料等)	<p>利用する情報</p> <p>2021 年 3 月 1 日から 2021 年 9 月 30 日までの電子カルテに記載のある診療記録、眼科検査値(矯正視力・自覚屈折度数)、生体計測値(眼軸長・角膜屈折力・前房深度・水晶体厚・角膜横径)を利用します。</p>
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。

<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究は当院眼科の研究費を用いて行います。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。 研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け適切に管理されます。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所属・職位：北里大学医学部眼科・准教授 担当者：(フリガナ) 飯田 嘉彦(イイダ ヨシヒコ) 電 話：042-778-8111</p>
<p>備 考</p>	